

□最近の活動状況

【第20回朝食懇談会】

— 7月26日(木)ザ・セレクトン福島 —

講師 株式会社 陽と人

代表取締役 小林 味愛 氏

テーマ 持続可能な地域づくりを目指して

～国家公務員から起業までとこれから～

参加会員数 51名

○生の現場へ

大学で政治学を専攻した私は「生の現場」で働きたいと思い衆議院調査局に入庁しました。最初に外務関係の部署に配属され、主にODAと租税条約EPAなどを担当しました。2年後に経済産業省へ出向となり、M&Aや買収防衛策、会社法改正など改正に関すること全般を担当しました。その後、ローカル経済圏に係る政策研究会に携わったことがきっかけで「現場」への思いが強くなりました。国家公務員の立場ではなく一人の人間としていろいろな人に話を聞くため日本総合研究所に転職しました。そこでは、富山県の宇奈月温泉で若い女性の視点を活かして温泉街を再び元気にするお手伝いや、会津若松で若者に会津清酒を好きになってもらう取り組み、国見町で若者が喜ぶコンテンツを作り一緒にまちづくりを学びながら若者のニーズを探るといった仕事などに携わってきました。北海道から九州まで毎日飛び回り仕事をしていましたが、「福島で働くことが自分にとって一番楽しい、ここでなら自分の強みを活かせる」と思い、2017年8月に国見町に会社を設立しました。

○問題意識

今の日本は、世界にも例が無い、人口減少、高齢化の進展という状況に加えて、国民1人当たり840万円の借金を抱えており、金も知恵も国に依存することは危険だと感じています。激減する人口を踏まえて、将来の世代のために自分たちの地域の事は自分たちで考えなければならないと思っています。税金で賄ってきた行政サービスは、今後、維持していくことが困難になると予想されます。そこで、民間企業が地域に対してどう貢献していくか、民間企業が稼いだお金をどう使っていくかということを自分の会社を立ち上げて考えていきたいと思い起業しました。

右 講師 小林味愛氏
下 講演会場風景

○橋渡し役

一番やりたいことは、福島の基幹産業である農業を持続可能な産業にし、稼いだお金を地域に投資して子供たちの未来に繋げていくという、持続可能な地域循環経済を福島で作りたいと思っています。今まで価値化できていない地域資源を私の目線で探し、ビジネスを作り、稼いだお金の一定部分を地域に再投資していくことをやりたいと思っています。東京出身の私ができる事は、これまでの経験を活かしながら農産物の販路開拓を通じた産地と消費地の橋渡し役です。例えば、モモですが、農家さんは大きいほうが売れると思っていますが、東京では小ぶりのほうもニーズがあります。既存の規格ではなく消費地のニーズから考えることで、今まで規格外品として捨てられていたモモを適正な価格で購入し販売することができ、農家さんの収益アップにつながります。また、実際に農作業をお手伝いさしてもらい、産地の情報をお客様に届くように努めています。

この他に、これまで廃棄されていた農産品を利用した6次化商品開発も行っています。常に売れる商品とは何かということを念頭に置き、顧客は誰か、何を求めているか、一つ一つ考えながらじっくり商品開発をしています。

今はこの二つをメインで行っていますが、来年からは都会から農業をやりたい人を呼び込み、農業への関わり方をコーディネートしたいと考えています。

○後世に繋げる地域づくり

これからの日本は、私が生きている時代が変わっていくと思います。人口が減る、高齢化するという事実を、今の世代の人達が「自分事」として考えなければならないと思います。その上で、地域に根付いて小さなことでも自分たちの手でその地域に必要なコンテンツを作ることが重要であると考え、地域の人たちと一緒に取り組んでいきたいと思っています。(文責：事務局)

【2018年度通常総会】

— 6月28日(木) ホテル辰巳屋 —

2018年度通常総会が福島市の「ホテル辰巳屋」にて行われ、2017年度の事業報告、決算報告に続き今年度の事業計画と予算を審議し、いずれも原案通り可決しました。

また、任期満了に伴う役員改選について審議が行われ、浅倉代表幹事が退任し、高橋代表幹事、阿部代表幹事が再任されました。

総会終了後、引き続き同会場において木幡浩福島市長を講師にお招きし「中核市ふくしま誕生

○現状と認識

福島市は、東日本大震災、原子力災害からの復興や風評被害の問題に加え、人口減少という大きな課題を抱えている現状にあります。更に、中心市街地の衰退や公共施設の老朽化、待機児童の問題などが山積しています。一方で、福島市は市制111周年を迎え、本年、中核市へ移行しました。また2年後の東京オリンピック、そして東北中央自動車道の開通、医大・福大に新学部の設置が予定されており、発展していく環境が整ってきております。これらの機会を飛躍のチャンスと捉え、新ステージへと飛び立つ取り組みを進めていきたいと考えています。

○市政・政策の基本

政策の基本は、①ひと・暮らしいきいきふくしま、②産業・まちに活力ふくしま、③風格ある県都ふくしまの3つです。これらを進める上で私の市政運営方針は、「開かれた市政」と「スピードと実行」です。市民の皆様と情報を共有してお互いに共通認識を持つことが重要で、職員にも市民の皆様と共に歩む姿勢を定着していく取り組みを進めています。一方で、福島市はこれまで多くの課題が先送りされてきた現状にあります。復興・創生期間の終了まで残り約2年半、オリンピックまであと2年です。スピード感を持って取り組むことが大事になります。この市政運営の方針に基づき、中核市福島の元氣あふれる新ステージを作り、そして福島市だけではなく、県北、県全体の発展に貢献したいと考えています。

○新ステージのスタート

除染関連経費を除いた今年度の一般会計予算は、1,003億円です。福島市としては初めて1,000億円を超える予算となり、積極型の予算編成だと思います。

まずは、待機児童の問題です。ピークは2017年10月



代表幹事を退任された浅倉顧問

～ふくしまを元気に！新ステージへ～」と題し講演会を開催しました。

その後、会員懇親会を開き、初参加者とともに和やかな雰囲気の中親睦を深めることができました。以下、木幡市長の講演録を掲載しました。

で、250人いました。私は就任後すぐに官民合同会議を設置して、緊急対策パッケージを策定し実行して参りました。待機児童を250人から100人減らすという目標を掲げ取り組み、2018年4月には、ほぼ半減の112人になりました。若い世代を定着させるためにも出来るだけ早く待機児童がゼロになるよう今後も取り組みを進めていきたいと思っています。

福島市全体でみると子どもたちに対する政策が非常に遅れています。学校の老朽化や統廃合、IT教育の基盤整備が課題です。まずは、学校トイレの洋式化、耐震化のスピードアップ、不登校対策などの取り組みに加え福島市独自の特色ある教育、他所からでも福島市で教育を受けさせたい、子育てをしたいと思われるようなまちにしていきたいと考えています。

次に、除染については2018年3月末時点で全ての面的除染を完了しました。これからは、学校等の除去土壌を仮置場へ順次搬出して参ります。

また、モニタリングポストの撤去については、市民の皆様的心情に寄り添い、除染に伴う除去土壌が搬出されるまでは現状の測定体制を継続し、その後も国が責任をもって相当数を配置し、長期的に測定を行うことを国へ



講師 木幡 浩 市長

要望して参ります。

オリンピックを契機としたスポーツのまちづくりという点においては、独自に福島市アクション&レガシープランという行動計画を作りました。また来々となるような観光都市、選ばれる合宿都市、地域が輝く文化都市、ホストタウン事業を進め未来につながる国際都市を目指します。そして大会機運の醸成をオールふくしまで取り組んで参りたいと思います。

○動き出すふくしま新ステージ

福島中心市街地のまちづくりについては、全体像を意識して進めていく必要があります。老朽化が進む公

共施設を再編整備し、人が集まり交流するコンベンション施設を中心市街地に配置することが必須だと思っています。今後、民間事業者の再開発等と連携し、スピード感を持って取り組みを進めていきたいと思っています。

課題は非常に多いです。実行するためにはお金が必要となりますが、財源には限りがあります。単に予算に頼るのではなく、スクラップアンドビルドの実施や、民間の皆様とコラボレーションを積極的に進めることで、目指す福島の新ステージを実現していきたいと思っています。
(文責：事務局)

□今後の予定

【第22回朝食懇談会】

日 時：2018年11月21日(水)
会 場：ザ・セレクトン福島
講 師：仙台国際空港株式会社 代表取締役 岩井 卓也 氏

□事務局だより

- 2018年10月現在の「要覧・会員名簿」が発行になりました。
- 2018年6月から9月に入会・変更のありました会員を紹介します。(敬称略)

新規入会		2018年8月入会 江藤 祐二 三井住友海上あいおい生命保険(株) 福島生保支社長		2018年8月入会 西間木 博 (株)ダイユーエイト 管理部総務グループマネジャー
	会員交代		2018年6月交代 須藤 英穂 (株)東邦銀行 常務取締役本店営業部長	
			2018年8月交代 高橋 博明 (株)常陽銀行 福島支店 支店長	引続き会員増強にご協力をお願い申し上げます。 (2018年9月20日現在 会員数96名)

編集日誌

- ◇平成30年7月豪雨、台風21号、北海道胆振東部地震により被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。被災地の一日も早い復興をお祈り申し上げます。
- ◇およそ2か月という短期間に想像を絶するような災害が相次いで発生し、各地の甚大な被害状況を目にする度、自然の猛威に驚愕しては言葉を失うばかりでした。
- ◇東日本大震災から7年半が経過しました。国内外から温かい心のこもったご支援をいただいたおかげで、ふくしまは復興の歩みを一步一步確実に進めることができます。
- ◇被災された方々に心を寄せ、息の長い支援を続けていくことで、少しでも恩返しができるばと考えています。(今野)

□会員企業紹介 【第20回 ザ・セレクトン福島】

企業訪問20回目は、ザ・セレクトン福島の原澤総支配人です。旅行や出張といった日常とは異なる地域で活動する時にホテルなどの宿泊施設を利用しますが、近年、インバウンドの増加や東京オリンピックの開催等で、ホテル業界の新たな動向に注目が集まっています。その現状や今後の展望など伺いました。

○創業の経緯

セレクトホテルズグループを運営している(株)エフ・イー・ティシステムは、福島ビューホテルと縁があり8年前に提携し、2015年4月「ザ・セレクトン福島」に名称を変更しました。現在、シティホテルと言われるホテル兼宴会ができる総合ホテルを9



原澤二郎 上席執行役員総支配人

店舗運営していますが、当社としてはここ福島が「ザ・セレクトンホテル」のブランドホテル第1号店です。

提携後すぐに東日本大震災を経験し大きな痛手も受けましたが、むしろそれが頑張らなければならないと意を強くするきっかけとなり、その後に良い影響をもたらす結果につながっています。しかし、福島には震災の風評被害がまだまだ根強く残っていると感じています。当ホテルグループは地産地消にこだわっており、福島産食材を使った料理をお客様に提供することで、食を通じた風評被害払しょくの貢献ができればと考えています。

○インバウンド獲得に向けて

以前、私が西日本のホテルに勤務していたころ、外国人宿泊客が全体の8割を占めており、いずれその波が東北にも押し寄せてくるだろうと予測しています。その時に備える必要があり、官民一体となったインバウンド事業展開にもっと積極的に取り組まなければならないと思います。また、福島だけではなく東北6県が一体となってアピールする必要があると思います。全国には、温泉街に一定の基準を設けて街全体の景観を崩さず、ノスタルジックな雰囲気作りで成功している事例もあります。インバウンドを呼び込むためのポイントは、日本の良さを感じることができるかどうかにあると思います。そのためにも、福島の自然や歴史・文化など観光スポットを発信するためのツール作りが急務と感じています。

○地元志向

ホテル業は「人」が全てと言っても過言ではありませんが、今は人材確保が難しく大きな課題となっています。地元の方を雇用することで地元経済の活性化につながりますので、今後も地元採用を続けたいと考えています。採用にあたっては「志」の部分を重視しています。「志」を持って仕事に取り組む人は、理解も進歩も早いと感じているからです。如何に人に恵まれるか、如何に教育・指導していくかが長く勤められるかどうかの鍵となります。また、福島に長年勤めてきた従業員も、グループ化によって他のグループホテルへの勤務が可能で、視野を広げる良い機会となり個人のスキルアップにつながると思います。

○今後の展望

ロボットがフロント業務や荷物運びを行っているホテルや、チェックイン・アウトを自動化するホテルなどサービス形態が変化してきています。それらにより人員削減、効率化が期待できます。人手不足によるAIやロボットの導入という時代の流れは避けられないと感じていますが、日本人ならではの繊細なおもてなしの心はなくしてはいけないと思います。今までのスタイルにこだわらず、チャレンジ精神を持って新しいサービスの提案や、お客様が安らげる空間の提供に努めて参ります。



住 所 〒960-8068
福島市太田町13-73
設 立 2010年3月31日
従業員数 71名
T E L 024-531-1111
U R L <http://celecton-fk.jp>